

No. 1360

東洋ベア桑名優勝

— 第34回名岐、駅伝 —

愛知、岐阜両県陸上競技会、中日新聞社主催の第34回名岐駅伝競争大会が2月3日、大垣・名古屋間で行われた。50年の歴史と伝統に輝く中部地方最大の駅伝大会とあって出場チームもこれまでにない814チームが参加。レースは午前11時、一般の部34チームが大垣スポーツセンター前を一斉にスタート。気温5.5度と絶好の駅伝日和、沿道につめかけた観客の盛んな声援を受け一路名古屋へ。スタートから3キロ、中京大の第1走者、川口が早くも飛び出した。川口は切れのいいピッチ走法で予想以上の快走、強豪なみいる実業団を完全に引き離れた。中京大学はその後2区の上地、3区の池野と首位をキープ、このまま逃げ切って優勝かと思われたが東洋ベア桑野が実業団の面目をかけ、じりじりと追い上げた。そして最終5区ではついに東洋ベア桑野のアンカー大崎が中京大を抜いてトップに立ち、そのまま2時間20分47秒の好タイムでゴールイン。東洋ベア桑名は2年ぶり通算7度目の優勝を飾った

五つ子

元気に満4歳

山下頼充さん夫妻の五つ子ちゃんが1月31日満4歳の誕生日を迎えました。生まれた時は未熟児だった5人も最近では目をみはるほどの成長ぶりを見せ、身長、体重ともに標準なみになりました。幼稚園に入ってすでに10ヶ月、すっかり積極的になり今や第1反抗期「ごはんはいや、おいしくない」などと母親の紀子さんを困らせることもしばしばかわいい個性も芽生えますます元気な五つ子ちゃんです。

しし鍋の里

— 岐阜・郡上八幡 —

深い雪におおわれた岐阜県・郡上八幡。静かなたたづまいをみせるこの町が、雪の季節になると活気づいて来る。名物しし鍋のたいこが町中にひびいていたのも、そう遠いことではない。雪にとざされた山あいの町では貴重なたんぼく源として、しし鍋は人々に好まれてきた。いのししの猟は11月15日から2月15日間の3ヶ月間。約50頭位射とめる。しかし、今日では、これもだんだんと少なくなってきた。10年前の3分の1ぐらいである。そんな時にそなえてという訳ではないが、家でいのししを飼っている所もある。ともあれ、今夜はいのしし鍋で一杯。冷えた身体が鍋であたたまる。鍋のシーズンが終りをつげる頃、町はゆっくりと春の季節を迎える。